

主催：新潟茶摘み俱楽部



かつて茶の生産が盛んだった秋葉区小口地区で茶を訪ねるまちあるき



愛好家も酔いしれる 甘い味わい 新津の手もみ茶

秋葉区の『地の利』である豊富な水。そして肥沃な土によって育まれてきた茶。石油や鉄道のまちとして活気を見せた旧新津市が、その地の利を生かし、茶業も脚光を浴びていたことを知る者は少ない。また当時は手摘み手もみで製造されていた茶業も、現在では自家用としてわずかに生産されるだけとなった。

今回は、資料展『秋葉のみずつち学』、ワークショップ『秋葉のしおり作り』、まちあるき『AKIHA茶葉古道を訪ねて』を開催し、地域の歴史的財産を学び、魅力あふれるまちづくりへの気づきに繋げるよう発信に取り組んだ。参加者からは「茶葉から芸術を創造する貴重な体験になった」「秋葉区に茶文化が有ったとは初めて知った」「珍しいテーマの展示。今後は秋葉区とタイアップして継続してほしい」「子供の夏休みの体験授業に良かった」等の『発見』に通じる感想や、「秋葉区出身の母にしおりをプレゼントします」と生

まれ育った風景を思い起こしながら懐かしむ姿もあった。また、秋葉区小口自治会様のご厚意で地域の行事に参加させていただいたり、地域の方に小口茶を振舞っていただいたりと、嬉しい『化学反応』も次々に広がり「秋葉区にはお茶を守っている人がいて、その価値には注目すべき」「地域の方が積極的に関わられていてすごく良かった」「こんなに近くにお茶の樹が多くあり、景色がよい場所が有るんだと思った」「お茶が飲み易く美味しかった」との意見があった。思いがけず地域住民を巻き込んだ市民プロジェクトになり、新津の『茶』についての興味が膨らんでいることを参加者の声から知ることが出来た。今後も先人たちが巧みに利用しくらしに役立ててきた各河川の『水』と秋葉丘陵の『土』、そしてこの豊富な水と土が生み出した新津の『茶』、それぞれをキーワードに地域の魅力を創造し関心度を高めたい。（文：北川）

- 7月14日(土)～10月8日(月・祝) 資料展 秋葉のみずつち学～茶葉古道（新潟茶摘み俱楽部事務局）
- 7月14日(土)～10月8日(月・祝) ワークショップ「秋葉のしおり作り」（新潟茶摘み俱楽部事務局）
- 7月17日(火)、9月23日(日) まちあるき～AKIHA茶葉古道を訪ねて（秋葉山周辺・秋葉区小口地区）